

- 1 医療法に基づく医療計画において4疾病5事業に関する目標で4疾病に該当しない疾病はどれか。
- がん
 - 脳卒中
 - 糖尿病
 - 高血圧
 - 急性心筋梗塞
- 2 SOAP形式のSに該当するのはどれか。
- 患者の訴え
 - 検査結果
 - 考察内容
 - 処方内容
 - 診察所見
- 3 診療録について正しいのはどれか。
- 保存義務は5年間である。
 - 処方内容は記載事項に含まれない。
 - 医師と歯科医師以外は記載できない。
 - 医療法によって記載が義務付けられている。
 - 記載内容の訂正は該当頁を破棄して記載しなおす。
- 4 末期患者への対応として適切なのはどれか。
- 根治の希望を持てるようにする。
 - 延命を第一とする治療を行う。
 - これ以上医療を行う意味はないとはっきり伝える。
 - 治療方針の決定に患者の参加を求める。
 - 患者を病気に無理にでも向き合わせる。
- 5 右心不全時の頸静脈怒張の診察所見について正しいのはどれか。
- 仰臥位で診察する。
 - 外頸静脈で判断する。
 - 呼気位で頸静脈が怒張する現象をKussmaul徴候という。
 - 内頸静脈は視診では輪郭が確認できない。
 - 頸静脈の拍動は一峰性である。
- 6 腹部OSCEの診察の順序で正しいのはどれか。
- 視診→触診→打診→聴診
 - 視診→触診→聴診→打診
 - 視診→触診→聴診→打診
 - 視診→聴診→打診→触診
 - 視診→聴診→触診→打診
- 7 症候とその診察で誤っているのはどれか。
- 循環血液量の減少-----口腔内の乾燥
 - 浮腫-----前脛骨部の性状
 - 黄疸-----眼球結膜の色調
 - チアノーゼ-----口唇の色調
 - ばち指-----爪の色調
- 8 口腔咽頭の診察として正しいのはどれか。
- 頬粘膜には顎下腺開口部が観察できる。
 - 口腔底を診るには舌を前方へ挺出させる。
 - 口蓋舌弓は口蓋扁桃より後方に観察できる。
 - 咽頭扁桃は舌圧子を使えば観察できる。
 - 軟口蓋挙上を診るには発声を指示する。
- 9 肝硬変の非代償期に特徴的でない症状はどれか。
- 肝腫大
 - 女性化乳房
 - くも状血管腫
 - 羽ばたき振戦
 - 腹壁の静脈怒張
- 10 診療ガイドラインについて正しいのはどれか。
- WHOが作成する。
 - 厚生労働省が作成する。
 - EBM (evidence based medicine) に基づいて作成する。
 - 作成に患者はかかわらない。
 - 診療ガイドラインに合わない治療は禁止されている。

11 異物誤飲で受診した乳児にまず行うべき検査はどれか。

- a 心電図
- b 呼吸機能検査
- c アレルゲン検査
- d 消化管内視鏡検査
- e 胸部エックス線検査

12 妄想を呈する疾患はどれか。

- a うつ病
- b パニック障害
- c 社会不安障害
- d ナルコレプシー
- e 外傷後ストレス障害

13 死の判定で誤っているのはどれか。

- a 自発呼吸が認められない。
- b 自己心拍が停止している。
- c 瞳孔が散大している。
- d 対光反射が消失している。
- e 医師法の判定基準に従う。

14 生活習慣病について誤っているのはどれか。

- a 生活習慣病に対する一次予防の具体的な施策として「21世紀における国民健康づくり運動」がある。
- b 悪性新生物、心臓病、脳血管障害による死亡数を合わせると死因の約6割を占めている。
- c 健康日本21の目標には壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸、生活の質の向上がある。
- d 特定健康診査の血液検査項目には、脂質検査、血糖検査、肝機能検査がある。
- e 40歳代の男女ともBMIは20年前に比べて増加している。

15 裁判員について誤っているのはどれか。

- a 医学生は辞退できる。
- b 医師は辞退できる。
- c 事件の関係者は除外される。
- d 死刑に反対の人は除外される。
- e 全盲・ろうの人にもなることができる。

16 56歳の男性。直腸癌で入院中である。放射線治療と新しい抗癌薬との併用による第3相臨床試験に同意を得て治療を開始した。3週目に食欲低下および下痢が出現したので、この臨床試験への参加を中止したいと申し出があった。この時の血清CEAは開始時よりも低下していた。

その後の対応として適切なものはどれか。

- a 抗癌薬のみを中止する。
- b 輸液を行って継続する。
- c 患者の意思に従い直ちに中止する。
- d いったん中断後、症状の改善を待ち再開する。
- e 血清CEAの低下がみられるので患者を説得する。

17 38歳の男性。A病院での入院加療中に中心静脈栄養管理のため、右鎖骨下静脈からのカテーテル挿入処置を受けた。その際、気胸をおこした。患者は、気胸に対する治療を受け、重篤な後遺症もなく退院した。

退院時にB医師が、処方薬を誤り、通常量の3倍の量の抗菌薬が処方された。病院内の薬剤師も誤りに気がつかなかった。患者は、外来処方箋を持って、C調剤薬局を訪れた。

C調剤薬局の薬剤師は、処方薬の誤りに気がついた。

尚、この病院は、日本医療機能評価機構の認定病院である。

この事例について誤っているのはどれか。

- a A病院は、B医師に対し3か月の医業停止を命じる。
- b A病院は、病院内に医療安全を検討する委員会を設置する。
- c B医師は、カルテの処方記述の誤りを修正液で修正しない。
- d A病院は、気胸をおこした事実を日本医療機能評価機構に報告する。
- e C調剤薬局では、ヒヤリ・ハット事例として認識し、B医師に報告する。

18 63歳の男性。口腔内の痛みを主訴に来院した。

口腔内所見を示す。



口腔内所見

診断はどれか。

- a 舌炎
- b 舌癌
- c 舌白板症
- d 地図状舌
- e 舌カンジダ症

- 19 68歳の男性。左前胸部の胸痛を主訴に来院した。7年前から定期的な健康診断を受けておらず、定期通院歴もない。胸痛は深吸気時に増強。視診上胸郭の左右差はみられず、皮疹、皮下出血もない。触診上、左下肺野の声音振盪は減弱、同部位で呼吸音は聴取されなかった。

最も疑われるのはどれか。

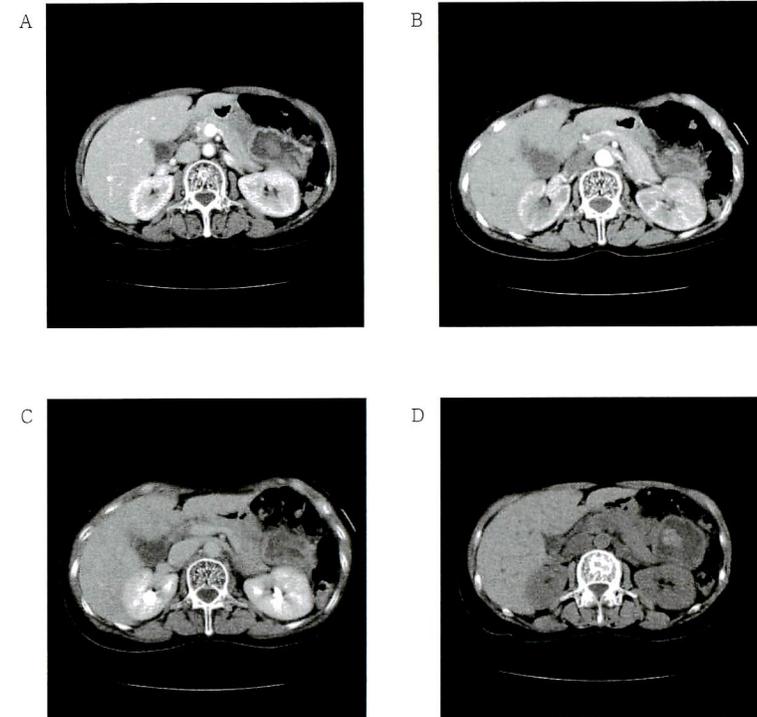
- a 狭心症
 - b 帯状疱疹
 - c 緊張性気胸
 - d 急性胸膜炎
 - e 急性胆のう炎
- 20 50歳の男性。腹痛と発熱を主訴に来院した。前日より嘔気と上腹部痛があり、市販の胃腸薬を内服したが軽快しなかった。発熱も出現し、痛みは増強しながら右下腹部に局限してきた。身長170cm、体重64kg。体温38.2℃。脈拍80/分、整。血圧140/80mmHg。血液所見：白血球13,000。免疫学所見：CRP 2.3 mg/dl。

この患者に認められないのはどれか。

- a 黄疸
- b 圧痛
- c 反跳痛
- d 筋性防御
- e 腸雑音低下

- 21 60歳の女性。腹部CT検査（ダイナミックCT）を受けた。撮影の順番は、どれか。

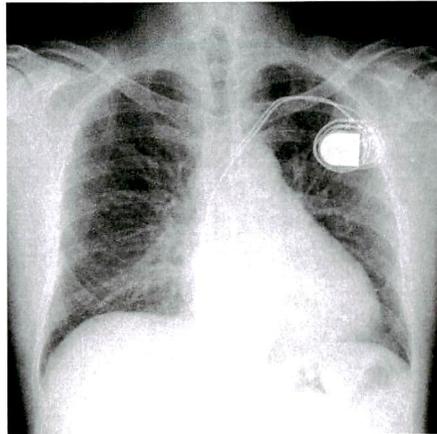
- a D-B-C-A
- b D-B-A-C
- c D-A-B-C
- d D-C-A-B
- e B-A-C-D



22 70歳の男性。循環器内科に通院中で、1週間前から両下肢のむくみが出現した。本日、午前7時20分自宅で倒れ、午前8時に当院に搬送された。来院時、意識障害と右片麻痺を認めた。胸部エックス線写真を示す。

最初に行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 頭部CT
- c 頭部MRI
- d 心臓超音波
- e 脳血流SPECT



胸部エックス線写真

23 50歳の男性。数日前より仰向けに寝ることができず、座位にて睡眠をとるようになった。午前1時ごろより呼吸困難が強くなり、泡沫状の喀痰と冷汗が出現したため来院した。脈拍130/分、整。血圧110/70mmHg。胸部エックス線写真は両側肺門部を中心に蝶形陰影を呈する。

投与すべき薬剤はどれか。

- a アスピリン
- b フロセミド
- c ペニシリン
- d ブレドニゾロン
- e プロプラノロール

24 35歳の男性。下痢と腹痛を主訴に来院した。3年前から下痢傾向であった。下痢は朝食後や緊張した時に多く、腹痛を伴う。食欲は良好で体重減少はない。意識は清明。身長175cm、体重67kg。体温36.4℃。腹部は平坦、軟で、圧痛はない。血液所見：赤血球数460万、Hb 13.8g/dl、白血球数5,800。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dl、AST 26 IU/l、ALT 30 IU/l。免疫学的所見：CRP 0.1 mg/dl。

診断はどれか。

- a 腸結核
- b クローン病
- c 偽膜性腸炎
- d 潰瘍性大腸炎
- e 過敏性腸症候群

25 75歳の男性。認知症と高血圧症を指摘されている。5日前から37℃台の発熱、食事摂取量の低下がみられ、体重が2kg減少した。今朝から排尿回数が少なくなり家族に連れられて来院した。意識はJCS I-2。体温37.4℃。脈拍108/分、整。血圧96/40mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。腋窩は乾燥。心音・呼吸音異常なし。腹部は平坦で膨隆なし。下腿浮腫なし。尿所見：蛋白(-)、潜血(-)、糖(-)、沈渣に白血球1-2/1視野、顆粒円柱認めず。血液生化学所見：尿素窒素36mg/dl、クレアチニン1.8mg/dl、Na 136mEq/l、K 3.7mEq/l、Ca 8.8mg/dl、P 3.1mg/dl。

初期治療はどれか。

- a 血液透析
- b 利尿薬投与
- c 生理食塩水輸液
- d リン吸着薬投与
- e 非ステロイド系消炎鎮痛薬投与

26 58歳の男性。脳ドックで多発性脳梗塞を指摘され専門医を受診した。頭部MRI上、大脳白質および皮質に多発する散在性病変がみられた。身長172cm、体重64kg、血圧148/92mmHg、飲酒1合/日を30年間、喫煙20本/日を30年間、血液生化学検査で総コレステロール200 mg/dl、TG146 mg/dl、FBS 120mg/dl、HbA1c6.2%（基準5.8%以下）であった。

今後の方針として正しいのはどれか。

- a 禁酒を義務づける。
- b 喫煙は1日10本以下にする。
- c 糖尿病は経過観察で良い。
- d 高脂血症の内服治療が必要である。
- e 血圧を130/80 mmHg以下にする。

27 50歳の男性。会社員。30歳頃から毎日飲酒する習慣飲酒を認め、4年前から、毎日500mlの缶ビール（アルコール度数 5%）を3本程度飲むようになっていた。2年ほど前から会社の定期健診で、 γ -GTPの上昇を認め、肝機能障害を指摘されていた。そのため、会社の産業医より内科の受診をすすめられ、消化器内科を受診した。

この症例の1日当たりの飲酒量を日本酒（アルコール度数15%）に換算したときに正しいのはどれか。

- a 約2合（約360ml）
- b 約3合（約540ml）
- c 約4合（約720ml）
- d 約5合（約900ml）
- e 約6合（約1,080ml）

次の文を読み、28～29の間に答えよ。

45歳の男性。昨日からの腹痛を主訴に来院した。以下は外来での医療面接の一部である。

患者 「昨日の夕方くらいからなんとなく胃のあたりが重い感じがしていました。」

医師① 「なるほど。その後どのようにになりましたか。」

患者① 「次第に吐き気がしてきて、1回だけ吐きました。」

医師② 「どのようなものを吐きましたか。」

患者② 「昼に食べた蕎麦が少しくずれたような感じでした。」

医師③ 「その他に症状はありましたでしょうか。」

患者③ 「夜になって右下の方が痛くなってきて、あまり眠れませんでした。」

医師④ 「ではかなり強い痛みだったのでしょうか。」

患者④ 「そうですね、だんだん強くなってきていて、歩いても響くくらいです。」

医師⑤ 「わかりました。ところで何かきっかけとして思い当たるようなこと、例えば生ものを食べたなどがありますか。」

患者⑤ 「いえ、とくにありませんが、30代の頃に盲腸を薬で散らしたことがあって、その時の症状と似ているのが気になります。」

医師 「そうでしたか。ではその他にもいくつかお伺いしたうえで診察をしていきましょう。」

28 解釈モデルを尋ねている医師の言葉はどれか。

- a 医師①
- b 医師②
- c 医師③
- d 医師④
- e 医師⑤

29 この患者の緊急度を示唆する言葉はどれか。

- a 患者①
- b 患者②
- c 患者③
- d 患者④
- e 患者⑤

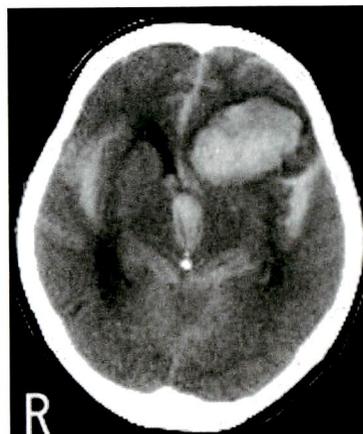
次の文を読み、30～31の問いに答えよ。

56歳の男性。生来右利き。突然の激しい頭痛と意識レベルの低下のため搬送された。

現病歴：仕事で接客中に突然激しい頭痛があり、控室のソファーに横になって休んでいた。10分後に同僚が呼びかけても反応がないことに気づいて、救急車が要請された。

既往歴：健康診断で高血圧は指摘されていたが放置していた。

現 症：呼びかけには反応なく、痛み刺激で上下肢を伸展する肢位をとる。体温36.7℃。呼吸15分、浅。脈拍 48/分、整。血圧 190/110mmHg。瞳孔両側5.5mm、同大、対光反射消失。来院時の頭部単純CTを示す。



頭部単純CT

30 次に行う検査として診断に有用なのはどれか。

- a 脳波
- b 腰椎穿刺
- c 脳血流検査
- d 脳血管造影
- e 聴性脳幹反応

31 この患者が回復した時に、残存する可能性の高い神経症状はどれか。

- a 着衣失行
- b 運動性失語
- c 同名性四分盲
- d 表在性知覚障害
- e 半側視空間無視